

けやき
櫂

の

こころ
魂

村西空手道部通信 第6号(令和5年10月5日)

【変動する気候】

長く生きてると「異常気象」という言葉を何度も聞きます。降雨、降雪、干ばつ、寒波など気象の種類は異なっても、異常という言葉を経験となく耳にしました。今年は「異常な猛暑」です。そもそも「猛暑」は私が子供だったころは「異常気象」そのものでした。35度を超える日などはめったになく、そんな日は異常な暑さと言われていたのです。ところが、そんな異常な暑さが頻りに記録されるようになると、いつのまにか、「猛暑日」などとして通常の気象用語になっていました。そして、今年は異常な暑さを意味した言葉だったはずの猛暑日が、ついに「異常な猛暑日」にまで格上げです。気象庁では「異常」という言葉は30年に一度見られるかどうかの基準で用いるようですが、今年の「異常な猛暑日」は100年に一度あるかないかのレベルだったのだとか。つまり、私を含めて現在生きている人で経験したものはないんだそうです。

そんな暑さも10月になると落ち着いてきました。気温が30度を下回り、25、6度に落ち着いています。ところがこれだと立派な「夏日」です。25度を超える日を夏日と言います。結局、10月になっても夏は継続していることになります。不思議ですね。「暑さ寒さも彼岸まで」、と子供のころに聞かされた言葉はもはや通用しません。

9月29日に予定されていた体育祭も熱中症予防のために延期されました。体育祭が延期される理由は、昔は雨が降ったからと相場が決まっていたのですが、熱中症予防のために延期されるのはまさに「異常な猛暑日」のせいです。

【変化する学校】

私は65歳を過ぎて、再び生徒を教えるようになりました。桜華で道徳の授業を4年間、本校では今年から部活動として空手を、また、昨年からは近隣の中学校で体育授業の種目として空手を教えています。7年ぶりに都立に戻りましたが、学校はずいぶん変わっていました。社会の変化に合わせて運営の在り方や情報化の進展などが背景にありますが、コロナ禍の影響も大きかったようです。本格的なパンデミックは大人も子供も初めてでしたから。そんな中で生徒も教員も苦労しています。私も意気込んで部活を立ち上げましたが、

やはり、思うようにはいきません。

ともあれ、大切なのは希望を持つことだと思います。一般に学校の良し悪しを話題にする人をよく見かけますが、良い学校や悪い学校など、決まっているわけではありません。良し悪しは自分がこれから取り組むための現状把握に過ぎません。問題はこれからどう取り組むか、それにつきます。空手部を立ち上げて半年が経ちました。今後も、子供たちとの接点を持ち続けたいと考えています。

10月

日	曜日	学校行事	練習時間	日	曜日	学校行事	練習時間
1	日	都民の日		16	月		
2	月			17	火	中間考査始	
3	火	体育祭		18	水		
4	水	一斉委員会 職会		19	木		
5	木			20	金	考査終	
6	金			21	土		練習休み
7	土		8:30 ~ 12:30	22	日		
8	日			23	月		
9	月	スポーツの日	8:30 ~ 12:30	24	火		3:40 ~ 6:00
10	火	中間考査一週間前		25	水	2年修学旅行始	
11	水			26	木		3:40 ~ 6:00
12	木			27	金	2年修学旅行始	
13	金			28	土		8:30 ~ 12:30
14	土			29	日		
15	日			30	月		
				31	火	学運協2	3:40 ~ 6:00

次ページに7月30日に行われた「中学校空手道奨励大会」の記録を載せてあります。



OSS!! TOPICS
Valuable Information

授業で空手を習った人も参加できる！ ユニークな学校空手道奨励大会が発足！



フリー枠
 特定の道場に所属していない方を対象。東村山西高校空手道講座の受講者や、学校の体育授業などで全空連制定基本形1以上の習得者が出場できる。

■授業で空手を習った人も参加可能

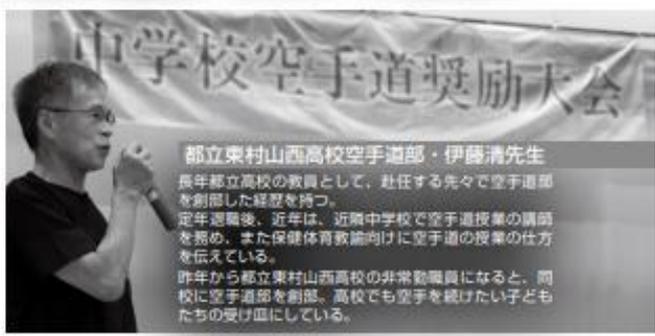
今大会は小学5年生～中学生が対象。上級者向けの種目もあるが、最大の特徴は、道場で空手を習っていない人も参加できる「フリー枠」を設けていることだ。学校の授業で空手を経験した人、また東村山西高校が一般向けに開いている空手道講座の受講者も参加が可能だ。

今回の「フリー枠」の種目では、各選手が全空連基本形を堂々と演武。演武後に温かい拍手が送られた。

■東村山西高校から、空手普及の動きを！

今大会を発案したのは、同校空手道部の伊藤清先生。伊藤先生は近隣の中学校の空手授業の講師も務めており、空手道の普及への熱い思いから、大会を企画。伊藤先生の熱心さに、東村山西高校の古溝紀也校長が支援、さらに学校近隣の3道場が後援し、この奨励大会の開催実現に至った。

伊藤先生は、この大会が、授業で空手道を経験した小・中学生にとって成果を発表する場となることを見据える。さらには、高校でも空手を愛好し続ける場として、東村山西高校空手道部の発展を進めていく。



部立東村山西高校空手道部・伊藤清先生
 長年部立高校の教員として、社任する先々で空手道部を創部した経歴を持つ。定年退職後、近年は、近隣中学校で空手道授業の講師を務め、また保健体育教諭向けに空手道の授業の仕方を伝えている。昨年からは東村山西高校の非常勤職員になると、同校に空手道部を創部。高校でも空手を続けたい子どもたちの受け皿にしている。



東村山西高校空手道部のみなさん。今大会の運営を務めた。今年の春に創部した。部の練習には近隣道場の中学生も参加し、東村山西高校が空手をもとにして活気づいている。



元・全空連専務理事の竹隆佐氏が大会特別顧問を務める。



昨年始まった、東京都三鷹市の中学生地域合同部活動のチーム「三鷹市空手道部」が参加。

大会結果は124ページから

入賞者

